

憲法しんぶん速報版

第164号

2007年5月31日

発行=憲法会議

Tel 03-3261-9007

Fax 03-3261-5453

広がる与党内の矛盾

安倍内閣の支持率は一旦上昇したのも束の間、急落しました。そればかりか安倍氏の「改憲を参議院選の争点に」との発言に、与党内の異論が絶えません（資料）。参院選で「自民党は公明党への依存をいっそう高めざるを得ない」（5・30毎日）という状況のもと、公明党は、集团的自衛権をめぐる4類型を容認する考えを打ち出しながら、改憲の争点化を盛んに牽制しています。なぜなら、改憲を声高に叫ぶ自民候補を支援する公明の実像が、「平和の党」の仮面を吹き飛ばしかねないからです。「日経」調査は、「集团的自衛権の解釈はいまのままで」が39%、自民党支持層でも34%とそれぞれ最高となっています。

このような時、各地の無数の学習会で、「9条改憲NOこそ多数派」という確信が広がり、情勢にふさわしい運動の推進が意思統一されています。改憲阻止を求める草の根の世論と運動の前進こそ局面打開のカギです。

世界は9条を求めている

—埼玉の集いに900人—

5月24日、埼玉会館で憲法施行60年を記念して「輝け！日本国憲法の集い」が開かれました。埼玉憲法会議が主催したもので、900人が参加しました。集会ではジャーナリストの堤末果さんが、9・11テロに遭遇した体験をもとにアメリカの現状を報告。貧困層の若者たちがイラクに派兵され、最近では借金を背負った人を高給で雇い、イラクで軍の仕事させているなど生々しい実態を告発。戦争を体験し

た若者が「9条をなくさないで」とメールを送っていると語り、平和憲法を若い世代に伝えようと訴えました。また朝日新聞の伊藤千尋氏は、中南米諸

「九条の会」学習会

安倍内閣と 集团的自衛権問題

☆6月9日（土）午後1時半～

○あいさつ 三木睦子

○お話し 渡辺 治

○参加費 800円

日本教育会館8階第2会議室

国を取材した経験をふまえ、それぞれの国が権利擁護や生活改善のたたかいに自国の憲法を活用している、と語りました。「日本は憲法を遠ざけてきた。憲法を輝かせようと思ったら自分が輝くこと、自分の意志が生かされた社会を作ろうと思ったら憲法を輝かせること」と締めくくりました。

和歌山で県民のつどい

「憲法九条を守るわかやま県民の会」は、5月12日、市内のビッグ愛で「県民の集い 5月の風に We Love 憲法」を開催しました。集いには300人が参加、名古屋大学大学院の浦部法穂氏が講演をしました。浦部氏は、「規制緩和、郵政民営化などに続いて、今度は改憲で国民の命さえ、アメリカに売り渡そうとしていると厳しく批判、憲法の平和主義は今の時代にこそ現実的な意味を持っている」と語りました。集いでは、青年9条の会が歌や漫才で平和をアピール、県民の会の和歌山大学の後藤正人氏、県教組の武内正次氏、弁護士の赤木俊之氏らが取り組みの強化を訴えました。

各紙が伝える

与党内矛盾語録

■ 船田元衆議院憲法特理事
「憲法改正を参議院選の争点にするというのは言い過ぎ」「憲法で国家権力を縛るといふ要諦が我が党の中でも少し軸がずれ始めている」（5・20シン

ポ）

■ 溝手顕正国家公安委員長

憲法改正を自身の選挙戦では「あまり議論をふっかけるつもりはない」と争点化に否定的（5・26 記者会見）

■ 太田昭宏公明党代表

（参議院選で自民党候補が憲法問題で公明党の考えと）「根本的に違うことをいうなら支援を躊躇せざるをえない」（5・27 NHK）

|| 好評発売中 ||

ちょっと待った 集団的自衛権って？

川村俊夫著

- 学習の友社・定価1200円
- 申し込みは憲法会議へ

安倍内閣の支持率が急落

・（ ）内は前回

○日経（5月25～27日）

支持	不支持
41 (53)	44 (37)

・重視する政策—憲法改正7位

○毎日（5月26・27日）

支持	不支持
32 (43)	44 (33)

・重視する政策—憲法改正15位

○朝日（5月26・27日）

支持	不支持
36 (44)	42 (36)

・重視する政策—憲法改正7位